

科学技術と人類の未来に関する国際フォーラム（STS フォーラム）開会式  
菅副総理基調講演（仮訳）

平成21年10月4日

御列席の大臣、大使閣下、紳士淑女の皆様、

第6回 STS フォーラム年次会合に際して、全世界からお集まりの各界のリーダーの皆様を前に基調講演を行う機会を得ましたことをうれしく思います。また、STS フォーラム開催国の副総理兼科学技術政策担当大臣として、皆様の御参加を心より歓迎いたします。

まずスピーチの前に、先般のスマトラ沖の大地震により被害に苦しんでいる方々に深いお悔やみと哀悼の意を表したいと思います。

科学技術の進歩は我々の暮らしの向上と経済の発展を可能にしてきました。その一方で、科学技術の進歩によって地球温暖化等の問題も引き起こされております。

STS フォーラムは、この科学技術の光と影の問題について科学者だけでなく、政策立案者、ビジネスリーダー、ジャーナリストが一堂に会して議論する非常に重要な場であると認識しています。

我が国はこれまでも科学技術振興を重視してきましたが、これまでの内閣では科学技術のバックグラウンドを有する閣僚はあまりいませんでした。

先月、政権が交代し鳩山内閣が発足しました。この内閣においては、科学技術のバックグラウンドを有する政治家が重要なポジションに就任しています。

すなわち、鳩山総理大臣が我が国初の工学博士号をもった総理大臣であるとともに、副総理である私も含め、平野内閣官房長官及び川端文部科学大臣は大学で科学技術関係を専攻しました。このことは、我が国の政治史のみならず科学技術振興にとって画期的なことと認識しています。

鳩山内閣は、経済発展と環境保護の両立には科学技術が不可欠との認識のもと、科学技術により我が国経済を活性化すると同時に、国際社会に貢献していくこととされています。

科学技術により経済発展と環境保護の両立を実現するための具体的な取組の一つが鳩山イニシヤティブです。ご存知のように、我が国の鳩山総理は9月22日に国連気候変動首脳級会合の場において、

- ・世界のすべての主要国の参加による意欲的な温室効果ガス削減目標の合意を前提に、地球温暖化を止めるために科学が要請する水準に基づくものとして、我が国の温室効果ガス排出量を、2020年までに1990年比で25%削減すること、
  - ・地球温暖化を解決するため、途上国や島嶼国に対し、これまでと同等以上の資金的、技術的な支援を行う用意があること
- を表明しました。

この鳩山イニシャティブが各国に高く評価されていることを大変喜ばしく思います。ご存知かとは思いますが、この会議場は12年前に地球温暖化防止の京都議定書が合意された場所です。現在、ポスト京都議定書の枠組について国際的な交渉が続いておりますが、世界のすべての主要国が参加した、公平かつ実効性のある国際枠組が構築されることを期待しています。また、鳩山内閣の一員として、私もイニシャティブの実現にしっかりと取り組んでいきたいと考えています。

鳩山イニシャティブの野心的な目標を既存の技術の活用だけで達成することは困難であり、革新的な技術の開発と活用が不可欠です。ここで、私は「グリーンイノベーション」という考えを提言したいと思います。

私がかねてから、バイオマスや太陽光発電などクリーンエネルギー分野で、世界を牽引する技術大国・日本を目指すとともに、農業・林業を通じて社会を再活性化することを考えてきました。

生命が存在しなかった原始地球から、現在の多様な生命が存在する緑豊かな地球へとなるにあたっては、植物の光合成によって酸素が供給され、エネルギーが固定されたことが基礎となっていることはご存知の通りです。

植物はこの光合成で太陽から膨大なエネルギーを取り込んでおり、このエネルギーを有効に活用することによって、持続可能なエネルギーの確保が可能となります。このように、まさに、植物の力を活用することこそが地球再生の鍵なのです。

そして、このような分野の人材を育成し、新たなビジネスチャンス・雇用を創出することにより、社会経済を活性化していくことができると考えています。

今回の経済危機の克服のために各国は今、大変な努力をしています。我々は、短期的には経済回復を確実にしなければなりません。しかしそれだけでは十分ではありません。中長期的に持続可能な経済成長の基盤を作ることも不可欠です。グリーンイノベーションによる社会の活性化は、一つの有効なアプローチになるものと考えます。

私は、日本がこのグリーンイノベーションを実践し、成果と経験を世界に発信することにより、経済成長と環境保護が両立する持続可能な社会が全世界で建設されてい

くことに貢献できることを希望しています。

地球温暖化は科学技術の発展と活用により引き起こされました。グリーンイノベーションは、科学技術の知恵により、科学技術がもたらした負の側面である地球温暖化を解決しようとする取組です。その意味において、グリーンイノベーションは、STS フォーラムのテーマである科学技術の光と影の問題の典型例であると思います。

私としては、地球温暖化問題、生命倫理問題、核の平和利用の問題に代表される科学技術の負の側面を人類の英知により上手にコントロールしながら、科学技術の優れた側面を積極的に推進していくことが不可欠であると確信しております。

私もその信念を実現するよう努力していきたいと考えています。

STS フォーラムにおける科学技術の光と影に関する議論が、今年も人類共通の未来に向けて実りあるものとなることを心より祈念いたしまして私の挨拶とさせていただきます。

御清聴ありがとうございました。